

昨年日本は自国の環境・省エネ技術を中国などの新興国に供与し世界の低炭素化を支援する「鳩山イニシアチブ」を打ち出した。その10年前から、日本の環境産業の中国進出を支援してきたのが環境コンサルティ

ングの日本テピア(大阪府)だ。社長の劉炳義(47)氏は中国出身。世界的に低炭素化の動きが進むなか「環境技術を通じて日本と中国、アジアをつなぐ懸け橋になる」と意気込む。

カルストの高原が広がる景勝地、中国内陸部の貴州省で地方公務員の家庭に生まれる。名門・武漢大学に進み電力などのインフラ整備に欠かせない河川土木を修めた。成績は学年トップ。改革開放路線が始まった中国で最高のエリートコースである国費留学生に選ばれ

エコパースンの転機

日本テピア社長

劉炳義氏

在日中国人、母国の環境汚染懸念

国後の身の振り方を思案し、行先は日本。高倉健や山口百恵の映画に親しんでいたころ、中国から連れてきた妻が重い病気にかか

る。治療のためいったん帰国を断念、日本での就職を

日本製機器の導入仲介



の風景。

忙しい仕事の合間を縫って帰省するたび、年々環境汚染が激しくなっていくことを体感した。90年代の上海や北京の空気が暖房に使われる石炭のばい煙で息苦しいほど。宿泊したホ

テルの水道水は悪臭で飲めなかつた。「中国は日本の高度成長期の公害を体験することに

する」と思い立ったのは中国の環境問題を日本企業の持つ技術で解決すること。2000年テピア環境デザイン

スも手がけた。中国人がトップを務めるという無形の信用と、日本製の最先端環境機器を武器に、これまでに100を超

る中国市場が環境ビジネスの主戦場であるのは変わらない。今後は日中両国間のビジネスだけでなく「アジア全体の環境問題について解決策を提言するようなシンクタンクの機能も目指す」という。

中国市場規模

12年に37兆円

2012年に市場規模が約37兆円に達するとされる

中国の環境ビジネス。昨年

ひとつ

北京で開かれた日中省エネルギー・環境総合フォーラムでも水処理や省エネ分野

の中心に日中の官民が協力する約40の環境モデル事業が

(松井基一)